

Japan Association of Synthetic Anthropology

総合人間学会

Newsletter 第42号 2022年3月10日発行

発行人：古沢広祐

事務局：〒171-8588 豊島区目白1-5-1 学習院大学文学部教育学科 宮盛邦友研究室

電話 FAX: 03-5904-9348 (直通) HP: <http://synthetic-anthropology.org/>

【目次】

- I. 第16回大会概要 (2022年6月25-26日)
- II. 諸委員会報告
- III. 「総合人間学キーワード集」執筆公募のよびかけ
- IV. 2021年度活動日程など
- V. 事務連絡

*総合人間学会・年会費、2021年度未納の会員の皆さまへ

お手数ですが払い込みをお願いします。一般：7,000円 ・減額：4,000円 (減額は申請者のみ：学生や非常勤職などへの配慮)

・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072

① 郵便局そなえつけの振替用紙、② ATM送金、③ 電子振込みに対応しています。

*ひろく学会員の門戸を開いておりますので、ご関心の方々に入会をお勧めしております。

HP(入会案内)参照：http://synthetic-anthropology.org/?page_id=57

I. 第16回大会概要

各大学における感染症対策のため会場確保がむずかしく、第16回大会(2022)は、オンラインでの開催と決まりましたことご報告いたします。参加申し込みの方法など詳細は、昨年度大会時と同様の予定です。詳細は5月の大会プログラムでご案内いたしますが、以下に概要をお知らせいたします。(以下記載には1月にお送りした「NL特別号」と一部重複する部分がございます。)

日時：2022年6月25日(土)、26日(日)

方法：ZOOMによるオンライン開催

◇1日目(6月25日)仮設定：詳細は後日に調整

12:00~12:45		13:00~15:20		15:30~17:50
総会	休憩	シンポ第一部	休憩	シンポ第二部

◇2日目(6月26日)仮設定：発表申し込み状況にて後日に調整します

10:00～11:55		12:50～14:45		15:00～17:00
一般研究発表第一部	休憩	一般研究発表第二部	休憩	ワークショップ

一般研究発表者数とワークショップの数が決定しましたので若干の修正がありますが、確定版は HP または 5 月発送の大会プログラムでご確認ください。なお一般研究発表は 1 セッション 35 分(発表 25 分、質疑 10 分)、入替時間 5 分です。

1) シンポジウム (25 日午後)

ポストヒューマン時代が問う人間存在の揺らぎ ～人間能力拡張 (AI・アバター等) がもたらす将来世界とは?～

総合人間学会の設立時の状況をはるかに超える事態が現在進行中です。従来の人間観やその存在基盤をゆるがす事態を前にして、改めて総合人間学の存在意義が問われています。昨年度大会シンポジウムでは、「人新世と AI 時代における人間と社会を問う」をテーマに人新世 (アントロポセン) という地質学的な新時代に突入した人間社会に関して、持続可能な社会を見据える視点から問題を議論しました。

今期大会シンポジウムでは、人新世・AI 問題に関するさらなる掘り下げとして、とくに AI/ポストヒューマンをめぐる議論を深めたいと考えます。ポストヒューマン、ネオヒューマン、トランスヒューマニズム (超人間主義) が大きく台頭してきた背景には、AI 技術や情報・生命科学などの飛躍的、加速度的な発展があります。とくに、Y.ハラリ著『サピエンス全史』『ホモ・デウス』などを契機に、人間自体のバージョンアップを視野に入れた問題提起 (ポストヒューマン) と書籍の刊行が続いています。

若い世代のスマホ依存症、心身障害・疾患を改善・補強する新テクノロジーの開発、さらに新型コロナウイルスパンデミックやカーボンニュートラル (脱炭素) の社会転換を契機に、AI・IoT・メタバース (超仮想空間)、デジタル経済が急加速度的に進展しています。そこには光と影の世界が見え隠れしており、けっして楽観視できる未来が期待できるなどとは言えないでしょう。今回あらためて人間存在の在り様を「ポストヒューマン」の視点から照らし出すことで、既成概念を揺るがす地平からの議論を深めてみたいと考えます。総合人間学に集う多分野からなる本学会員の総力を結集して、本テーマを議論し掘り下げたいと思います。

- 報告 1 ポストヒューマン時代が揺がす人間らしさ —— 思想・哲学の視点から
上柿崇英 (大阪府立大学准教授/環境哲学・現代人間学)
- 報告 2 技術革新と人間性の再構築 —— 芸術・性・スピリチュアリティ
木村武史 (筑波大学人文社会系教授/宗教学)
- 報告 3 QVID TUM (次はなんだ?) —— 「人間を超える」という人間の根源的な欲求について
久木田水生 (名古屋大学大学院情報学研究科准教授/技術哲学・人文情報学)
- 報告 4 デジタル社会を生きる子どもたち —— 子ども学と脳科学の視点から
中村俊 (株)コルラボ (AI/IoT 系のベンチャー) 東京農工大名誉教授 (神経工学)

(司会進行) 古沢広祐 (國學院大學研究開発推進機構)
河野貴美子 (国際総合研究機構)

2a) ワークショップ A(26 日午後)

「人間」の定義が揺らぐ時代に「人間とは何か？」を考える
—AI、人体改造、持続可能性のさなかで、人間存在はどこへ向かうのか—

司会：上柿崇英（大阪府立大学／環境哲学・現代人間学）

本大会では、シンポジウム「ポストヒューマン時代が問う人間存在の揺らぎ——人間能力拡張（AI・アバター等）がもたらす将来世界とは？——」ということで、われわれが、身体と機械、脳とAI、治療と人体改造の境界が曖昧となっていく時代、これまで自明とされてきた「人間」の概念が通用しなくなる「ポストヒューマン時代」に直面することについて多方面から議論を行ってきた。本企画では、シンポジウムで行った問題提起をさらに発展させ、ここから浮上してくる哲学／思想的諸問題について議論を掘り下げてみたい。

コメンテーター

人間の未来について（熊坂元大（徳島大学））

〈自己完結社会〉について（竹中信介（道徳科学研究所））

〈無限の生〉の「世界観＝人間観」について（亀山純生（東京農工大学名誉教授））

2b) ワークショップ B (若手 WS) (26 日午後)

不安の時代の「愛」を考える（仮）

司会・コーディネーター：本多俊貴（拓殖大学非常勤講師）

報告者：木野村樹里（調査会社勤務・東洋大学社会学研究科博士課程満期退学）

菅原想（看護学校非常勤講師）

3) 一般研究発表(26 日午前/午後)

A (26 日午前) 主司会：長谷川万希子

岡部光明 ヒューマノミクスー人間性経済学の探究—

岩田好宏 人間の生き方としての自然保護

野口友康 予防接種ワクチンに関する言説の対抗関係

B (26 日午前) 主司会：亀山純生

川上哲 高度経済成長終焉期における東京都民の政治意識の変容

楊逸帆（Adler Yang）

文明に現れるジレンマを〈配分依存〉の視点から明らかにする
：総合人間学における「一葉知秋」の試み

柳沢遊 ある研究論文剽窃事件をめぐる2つの大学の判断基準について

C (26 日午後) 主司会：佐貫 浩

穴見慎一 人権の自然史的根拠の意義とは何か

太田明 小林直樹『暴力の人間学的考察』再考

前島康男 現代社会の危機と「よい子」

—「権威主義的パーソナリティ」と21世紀版ファシズム—

*大会プログラム用の原稿締切りを4月末、5月上旬での広報・発信を予定。

II 諸委員会報告

1) 2021年度 第1回運営委員会・理事会

2021年8月7日 13:30～ オンライン開催

二名の入会が承認されました。

役員任期の呼称確認： 役員任期は2年であるが、第8期は任期中途での移動・欠員・補充があり、同一任期中でも年度間で名簿に異同が生じる、役員表の呼称を「第8期（2020年度）」および「第8期（2021年度）」とする。

2021年6月19日総会で、修正を前提に承認された2020年決算書、2021年予算案の修正が確認された。（決算・予算はNL41で報告済み）

編集委員会から、「投稿テンプレート」と「投稿規程」の図表の字数換算について提案があった。（→後日編集委員会で決定し、すでにHPに掲載済）

出版企画委員会から学会誌の編集状況説明があった。

KW委員会からはKW集について長期的な展望（創立20周年記念→2026年刊行予定）が提示された。またKW委員会の（学会事務局を介さない）独自の会員一斉メール配信が承認された。

若手委員会のオンライン誌上の大会報告について編集委員会による査読が不要であることが確認された。

2) 2021年度 第2回運営委員会・理事会

2021年10月30日（土）13:15～ オンライン開催

1. 回大会の企画、大会シンポ、実行委員会体制について
2. 次期（第8期での役員交代があり第9期位置づけの検討）と役員改選の準備について
3. 学会規約の内容確認（発足時より運営上から委員会名などは適宜修正して使用）
4. 各委員会からの報告・審議事項（学会誌書籍版16号企画内容など検討）
5. KW委員会の報告・情報提供（活動予定など）
6. News letter 配信方針、配信状況や送付について
7. 電子ジャーナル版の論文の学術データベースでの公開方式について（J-Stage, EBSCO など）

3) 臨時運営委員会・理事会（2022年研究会の準備・内容検討）

2022年1月5日 オンライン開催

2022年研究大会は6月25-26日を第1候補に、オンラインでの開催と決定された。

シンポジウム企画およびそれに連携するワークショップ(A)につき、大会シンポ実行委員会（上柿委員長）からの提案にもとづき審議し、本NL記事のとおりと決定した。

実務体制としては、昨年同様に大会長 古沢広祐、オンライン実務責任者 大倉茂、事務局の準備担当 鈴木伸国とする。[昨年度年オンライン大会は大会実行委員長 中村俊、オンライン大会長 古沢広祐、オンライン実務体制 大倉茂、全体プログラム 穴見慎一。]

役員改選について議論され、理事へ継続意思確認メールを送り、欠員があった場合は会員へ理事推薦を電子メールで募ることとされた。

電子ジャーナルの学術データベース、J-Stage、EBSCO 登録について議論され、編集委員会からの承認が得られた。J-Stage 担当者（非常勤）の予算化、EBSCO 契約（契約者は会長）による収益（ロイヤリティ）が出る際の受け取り辞退が認められた。学術誌の掲載は、出版社との齟齬が無いように時期・号を確認する。

学会規約の改定について議論された。素案を作成し準備を進める。

III 「総合人間学キーワード集」執筆公募のよびかけ

学会員の皆様へ 「総合人間学キーワード集」 作成に向けての執筆公募のお知らせ

総合人間学キーワード（KW）集発刊委員会（KW委員会）は、学会創立20周年（2026年）記念を念頭において「総合人間学KW集」発刊（発刊形式は未定）に向けて鋭意活動を行ってまいりました。

このプロジェクトは、これまでの学会活動を振り返り、これからの活動の展望を拓く意味において、また、求められる総合人間学を構築する上でも、大変有意義なものと思われま

す。これまで、本委員会は総合人間学会ならではのKW集の内容はどのようなものであるべきかについて議論を重ね、その総括として「総合人間学KW集・記述モデル」を作成しました。また、過去の学会活動等から総合人間的に重要と思われる語句を抽出し、さらには学会員へのアンケート調査を行い「総合人間学重要用語・KW参考リスト」、「総合人間学KW参考リスト」を作成しました。

このような準備を経て、今後の「総合人間学KW集」作成に向けては、学会員への公募による自主的参加と委員会からの執筆依頼の二通りの方法を計画しております。

ここに学会員の皆様には以下のようなKW執筆の公募を行いますので、奮ってご応募下さいますようお願い致します。

総合人間学KW執筆に期待される基本的な認識、取り組み姿勢としては、学会ホームページ（HP）に掲載の本学会設立趣旨を御参照下さい。

2006年初版：http://synthetic-anthropology.org/?page_id=2

2019年新版：http://synthetic-anthropology.org/?page_id=1932

それに加え、以下の点にもご配慮いただければと思います。

1. 総合人間学の重要用語・KWとして取り上げる理由
2. 歴史的背景と反論を含む多角的視点
3. 総合人間学のテーマおよび展望

なお、「総合人間学KW集・記述モデル」（HP [KW2021.pdf \(synthetic-anthropology.org\)](#)）もぜひ参考にしてください。また、KW選出にあたっては、添付の「総合人間学重要用語・KW参考リスト」、「総合人間学KW参考リスト」をご参考下さい。ただし、これらの資料はあくまでも参考資料であって、記述法またはKWの選出を拘束するものではありません。

提出された原稿は委員会にて検討・調整して、学会HPの「総合人間学KW集」欄に掲載を予定しております。原稿の募集は数回に亘って行い、一定のKW数に達した後は、委員会による精選の後、将来的に「総合人間学KW集」として編集・刊行することを検討していきたいと考えております。本委員会は、広く学会員の皆様のKW執筆への参加を通して、本プロジェクトの達成を目指したいと思います。そして、この「KW集」発刊プロジェクトが、若手を含め学会員の活動・研鑽の場として、さらには、学会外の人々の協力を呼び込むことことで、会員拡大につながる契機となることを期待します。

以下はKW執筆応募要領です。

- ① 所定の様式（別紙）を用い、期日までにKW執筆を申し込む。
- ② KW委員会での審査後、申請者に結果を通知する。
- ③ 原稿は約3,000字を目途とする。書式等の詳細は後日連絡する。
- ④ 原稿の提出締切は単独執筆で4月末日、複数者による共同執筆の場合は期日延長の相談に応じる。
- ⑤ 執筆内容の確認・調整に関しては、KW委員会で検討後、相談していく。
- ⑥ 必要に応じ、記述内容に関する公開検討会(KW委員会主催)を開催する場合もある。
- ⑦ 連絡先：KW委員会事務 kw-committee@synthetic-anthropology.org

以上

【留意点】

※申し込み受け付け期間 2022年2月17日～3月17日(郵送の場合も必着)

※応募に必要な書式や関連資料は全て学会ホームページから入手可能です。

(<http://synthetic-anthropology.org/>)

※インターネットをご利用になれない場合は、事務局宛の書面にて、ひとまず「応募の意思がある」ことをお伝えください。後日、必要書類一式を郵送いたします。

【申し込み先】

◇メールの場合 (KW委員会専用アドレス)

E-mail: kw-committee@synthetic-anthropology.org

※ 可能な限り、メールでのお申込みをお願いいたします。

◇郵送・ファックス利用の場合

事務局：〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

学習院大学文学部教育学科 宮盛研究室内

電話：03-5904-9348(ファックスも左に同じ)

2022年2月17日
総合人間学KW集発刊委員会

IV. 2021 年度活動日程

今年度内の予定は以下のとおりです。これ以外の活動は電子メールで告知されます。メール登録にご協力ください。

理事会・運営委員会：

第4回 2022年5月14日(土) 13:30~15:30 (予定、議事により時間延長)

第5回 2022年6月 研究大会第一日 (予備)

* (協議・審議事項により、臨時会合を必要に応じて適宜予定します)

研究会・談話会の予定：

第2回談話会 (オンライン開催予定、別途案内します)

2022年4月9日(土) 午後3時半~

(平和問題をテーマに、堀尾輝久・元会長からのご報告を計画しています)

V. 事務連絡

1) 前号 NL(NL41 号)の誤記訂正

誤 「小原直樹先生を偲ぶ会報告」⇒正 「小林直樹先生を偲ぶ会報告」

第8期(2021 年度)役員一覧

誤「監事 柳沢遊」→ 正「監事 岩瀧敏昭 柳沢遊」

2) Newsletter のメール配信について： Newsletter は前号(41 号)から、郵送事務と経費削減のために、電子メール登録のある会員の皆さまには電子メールによる配信をさせていただくこととなりました。Newsletter の発行にあわせて、学会ホームページ(HP)に、Newsletter が配信された旨告知し、会員の皆さまに電子メールでの着信をご確認いただくことといたしました。よろしくご了解くださいますようお願い申し上げます。

3) 会費納入案内方法の変更： それにあわせて、会員の皆さまへの「宛名ラベル」での会費告知と振替用紙の同封は、機関誌などの発送時に行わせていただくこととなりました。ご納入会費の額は学会 HP でもご確認いただけます ([会員限定]>[マイページ])。

マイページ閲覧方法：Newsletter 第39号 (2020年6月27日発行) とその際に同封した「新システム」サービス開始お知らせ、を参照ください。

総合人間学会年会費

- ・一般：7,000 円
 - ・減額：4,000 円 (減額は申請者のみ)
 - ・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072
- ① 郵便局そなえつけの振替用紙、② ATM 送金、③ 電子振込みに対応しています。

恐れ入りますが「通信欄」に会費種別（一般・減額）と会員番号（宛名ラベルに記載）をご記入いただければ幸いです。

3) メール連絡と HP での案内：

メール登録されている方に、学会メーリングリストでのお知らせや行事案内等を、随時配信しています。お使いのメーラー機能によって、迷惑メールや低優先メールなどに振り分けられてしまうことがあります。

行事案内などは、学会 HP でも告知していきますので、適宜ご確認、ご覧頂きたいと思えます。またもし、学会メーリングリストでの連絡が届かない方がおられましたら、事務局にご一報ください。

学会書籍

学会発行の『総合人間学』を、会員向け価格にて販売中です。
広報とともに、ぜひ勉強・学習会などにてご活用ください。

第 15 号『コロナ禍を生きぬく、問いあい・思いやる社会を創造できるか』	本体 1,500 円(税込) → 1100 円！
第 14 号『いのちのゆれの現場から実践知を問う』	本体 1,600 円(+税) → 1300 円！
第 13 号『科学技術時代に総合知を考える』	本体 1,760 円(+税) → 1300 円！
第 12 号『<農>の総合人間学』	本体 1,600 円(+税) → 1300 円！
第 11 号『人間にとって学び・教育とは何か』	本体 1,600 円(+税) → 1300 円！
第 10 号『コミュニティと共生』	本体 1,900 円(+税) → 1500 円！
第 9 号『<居場所>の喪失 これからの<居場所>』	本体 1,900 円(+税) → 1500 円！
第 8 号『人間関係の新しい紡ぎ方』	本体 1,900 円(+税) → 1500 円！
第 7 号『総合人間学を 3・11 から考える』	本体 1,900 円(+税) → 1500 円！

※ 送料：1～2冊(第 10 号以前は 1 冊)は 1 8 0 円(ゆうメール)、それ以上は別途実費を計算いたします。

※ これ以前の学会誌については、在庫を確認しますのでお問い合わせください。

～お問合せ先～

総合人間学会事務局

《所在地》〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1

学習院大学文学部教育学科 宮盛邦友 研究室

《電 話》03-5904-9348 (直通) / Fax: 同左

《E-mail》contact@synthetic-anthropology.org

《学会 HP》http://synthetic-anthropology.org/